

ここは「住宅型」の有料老人ホームだ。ホームにはもう1つ「介護付き」というタイプがある。住宅型とは、一般の住宅に住むのと同じ扱いで、介護を受ける場合は一つひとつのサービスを選ぶことができ、その合算した金額の1割を支払う。ただし、費用総額には限度額があり、それを超えると超過分については全額負担となるため、介護度が重くなると、予想外の出費になってしまう。一方、介護付きは要介護度別に定額料金となるため、超過料金を気にすることはない。ざっくり言えば、住宅型は自立者や要介護度の低い、元気な高齢者向き。介護付きは、要介護度が高い人向けに力点が置かれている。

・・・

気になる料金は、いちばん狭い部屋（約37平方メートル）に1人で入る場合、**入居時に支払う金額が2700万円台**。月々の費用が**食費、管理費、光熱費などで15万円ほど**。

出迎えてくれた施設長に安さの理由を語ってもらう。

「ここは**社員寮を買い取って、改造**したものです。食事代が安いのは（チェーン全体で）5000人いる入居者の食材を一括購入し、セントラル・キッチンで調理し、各ホームに送っているからなんですね。紙オムツだって、メーカーから直接に購入している」

「しかし、**入居金ゼロ**というのは、驚きですね」

「思い切ってゼロにしたら、インパクトが強くて、入居者が一気に増えました。ここでも、100人を超える定員のうち空室は1つ残っているだけです」

価格を大きく下げる代わりに稼働率を上げるのが戦略だと言った彼は、さらに驚くべきことを言う。

「入居金ゼロで月の費用が12万円を切るホームも、あるんですよ」

では、企業を定年退職した方が多く入居するであろう老人ホームを例に取って、いったいいくらぐらいかかるのかを計算してみよう。東京都内にある中クラスの介護付き老人ホームを例にとってみると、入居一時金1000万円で、月々の家賃や管理費、食費合わせて22万円くらい。さらには美美容代やクリーニング代、病院への付き添い、医療費などが加わり、要介護状態になれば、介護サービス費の1割負担、紙おむつ代などがかかります。かりに**75歳の時、要介護1で入居し、80歳で要介護3、90歳でご逝去**した場合は、以下のようなになる。

入居一時金1000万円。約15年間の家賃や食費が4000万円弱。介護保険の1割負担が15年で400万円ほど。紙おむつ代、美美容代やクリーニング代などの雑費が加わるので、それが月に3万円として、15年間で540万円。加えて、医療費などが加算されれば、**合計6000万円を超える**。大きな「買い物」である。

収入としては厚生年金が月に20万円入るとして、15年で3600万円。差し引き**2400万円以上を貯金から取り崩したり、自宅を売却したお金から支払ったり**しなければ

ばならない。

もし、終の住み処と考えるのなら「**老人ホームの将来性**」も考えに入れるべきだ。あまりにも交通の便の悪いところ、冬の季節の気候が厳しいところばホームの将来が不安だと、私は思っている。このへん、住宅と一緒にですね。

「介護棟に移ってもらう時には、ほとんどの方が泣きますね」

ある老人ホームの方が言っていた。いよいよ人生の最終盤が迫ったということ、現実のものとして知らされてしまうからだろう。

「入居者同士、親しくなっても、サロンとか娛樂室でお話をしてほしい、おたがいの部屋を訪ねて行ってはいけないというルールができてるんです。居室に招き入れたりすると、『物を盗られた』とかいうトラブルが起こりますもので」

認知症が始まると、よく起こる「**物盗られ症候群**」である。

ある入居者が言った。

「**部屋のお風呂ではなく、大浴場を使えば、ガス代や水道代が浮くんですね**」

あ、そうか。高めの老人ホームに入っているけど、現役を離れているため、限られた収入しか得られない。だから、入居者たちは節約にも励んでいる。

羊羹を先着 50 人にプレゼント——。

無料引換券は各部屋に備えてあり、次回訪れた時に利用できるシステムだ。

引換券を使うのは、もっぱら「おじいさん」や「おばあさん」である。

「お年寄りに人気の『とらや』の逸品で、いつもすぐなくなります」

長野県や山梨県などで 3 つのラブホテルを經營する細田悠太氏（31 歳）がそう話す。

羊羹の無料引換券配布は、高齢者の顧客を意識したサービスだ。

男の昼ごはん読本

とはいえ「もうちょっと派手なものも持っている」と笑う。自宅にはヒョウ柄の洋服が 10 着ぐらいあるという。小原おばちゃんいわく、ヒョウ柄は着ている自分が楽しくなる。しかも自分だけが悦に入るのはではなく、接する人を楽しませることができる。

「その場の雰囲気が和み、話が盛り上がるのよ」

ヒョウ柄もまたコミュニケーション道具の1つなのだ。

・・・

「カネはコツコツ貯めたでえ」と勇ましい。カネは貯めてもストレスは溜めないことが楽しく毎日を送る上で欠かせない、と言う。

要介護5で介護サービス費が月に40万円かかったとするなら、約36万円までが1割負担で、残りが10割負担だから、3万6000円プラス4万円となり、合計7万6000円にもなってしまふ。このあたりが、サ高住の最大の弱点と言われている。

- ①認知症でも体がしっかりしていれば、グループホームがいい
- ②グループホームには、その自治体に住む人しか入れない
- ③経済力に自信がなければ、ケアハウスという選択肢もある

じつは私、50代の頃、5カ月の短期間ではありましたが、特養で介護職員の修業をいたしました。ダイレクトな虐待こそなかったが、入所高齢者の頼みを見捨てるということは、ほとんどの職員がしていた。よほど時間のある時を除いて、フロアは早足で歩き、入所者呼び止める声は聞こえないふりをして通り過ぎる。入所者（認知症の方が多い）の理解にくい言葉の一つひとつ応じては、1日の仕事をこなさきれないからだ。

自分の住む市内に、どのくらいの数の特養があり、場所はどこなのか、待機者数はどの程度なのかなどを知るには、インターネットで「介護サービス情報公表システム」を調べてみるのが手っとり早い。

青山せいざん（死に場所）

その最終章は、定年退職後を書いた「人生の黄金期」。タイトルとは裏腹に、60代は友人の死、自分の病気と苦しい出来事が重なっている。

長寿が必ずしも幸福をもたらすものではない。

「人生は第4コーナーから」

シニアライフを楽しく生きる術は「知恵」と「工夫」次第。

老後は「金持ち」より「人持ち」になることが大切。